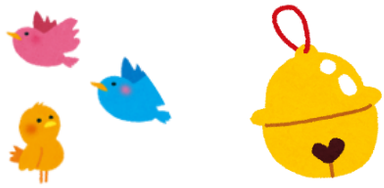
校長通信

止まり木

令和８年（2026年）
４月１３日発行
第３号
大阪市立野田中学校

ちがいを認める



本日の全校集会でのおはなしです。

修了式、入学式、始業式と、「人を認める文化」についてお話をしてきました。ちょっと苦手な人や嫌いだなと思う人にもいいところがある。頑張っているところがある。そんな人たちを正しく認めようということをお話をしてきました。今日は、もう一つみんなに認めてほしいことについてお話をしたいと思います。それは**「ちがいを認める」**ということです。みんなの周りにはいろいろな違いがあります。例えば、法律上の男女の違い・国籍の違い・障がいの有無・出身地の違いなどです。そして残念ながらその違いが差別につながっていることが多いということを忘れてはいけません。法律上の男女の違いでいうと、かつては男尊女卑と言って、男性が偉くて、女性は卑しいと言われていました。また、最近では先週、田原先生から全学年にお話があったように、法律上の男女の違いだけでなく、性的マイノリティーにかかわる違いがあります。問題なのは、これらの違いを認められなくて攻撃する、いわゆる**差別**につながっているということです。国籍の違いによる外国人差別。障がいの有無による障がい者差別。日本という同じ国に生まれているにも関わらず、生まれた場所の違いで差別が起こる、部落差別。本当に残念なことです。

大正時代に活躍した童謡詩人に金子みすゞという人がいます。国語の教科書や道徳の教科書で紹介されているので、知っている人もいるかもしれません。その金子みすゞさんの詩にこんな詩があります。

≪私と小鳥と鈴と≫

私と小鳥と鈴と
私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄（うた）は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

私は、鳥のように飛べないけれど、鳥は私のように地面を走ることはできない。私は鈴のようにきれいな音は出せないけれど、たくさん歌を知っている。
それぞれに強みがあり、弱みがあって違います。
でもそんな違いがあるから、人っていいのではないでしょうか。**『みんなちがって、みんないい』**
そんな違いも認められる一人一人であってほしいと、心から願っています。
野田中学校のみんななら大丈夫です。
頑張っていきましょう。